

「第2期ふくい嶺北連携中枢都市圏ビジョン(案)」に関するパブリック・コメント募集の結果

【概要】

平成31年4月に「ふくい嶺北連携中枢都市圏ビジョン」を策定し、人口減少・少子高齢化社会にあっても、一定の圏域人口を有し、活力ある社会経済を維持するとともに、地域住民が安心して快適な暮らしを営むことができるよう、取組を推進してきました。

当ビジョンは、令和5年度末に取組期間が終了を迎えますが、引き続き、嶺北7市4町の多様な資源や産業、人材の活用など、それぞれの強みを圏域全体の持続的な発展につなげていくため、令和6年度から10年度を取組期間とする「第2期ふくい嶺北連携中枢都市圏ビジョン(案)」を策定しました。

このビジョン(案)について、パブリック・コメントを実施したところ、皆様から以下のご意見をいただきましたので、それに対する市としての考えを示し、公表します。

【意見募集結果】

実施時期	令和6年2月13日から3月8日まで
意見提出状況	提出者 4人 意見数 9件
意見提出方法	書面の持参 0人 郵便 0人 ファクシミリ 0人 電子メール 1人 電子申請 3人

【意見に対する市の考え方】

	提出された意見	意見に対する市の考え方
1	圏域で何を最も重視したいのか、記載する必要があるのではないか。	連携中枢都市圏は、人口減少・少子高齢社会においても活力ある社会経済を維持することを目的としているため、「経済成長のけん引」「高次都市機能の集積・強化」「生活関連機能サービスの向上」の3つの役割を果たすことで、引き続き「つながり 創造する 活力と魅力あふれる」圏域を目指していく、と記載しています。
2	観光や産業誘致に目が向くような取組が中心となっており、高齢者対策や大規模災害時の対策等を忘れさせる方向になっているのではないか。	北陸新幹線福井開業等の効果を最大限に活かす取組を推進していく一方で、福祉や災害対策など、住民が安心して快適な暮らしを営んでいけるよう、連携して取組を推進していく、と記載しています。
3	会議や研修の取組回数を成果指標として設定し、成否を論じるのは、評価として誠実とは言えないのではないか。	今後、取組を進めていく中で、連携の効果の検証や取組の更なる深化につなげていけるような指標について、他の圏域の事例等も参考に研究していきます。
4	「災害対策」の取組では、大規模災害時に広域で支援体制がとれるよう、平時から相互補完関係を築き、融合性を強めておく取組が必要なのではないか。	防災対策の中で、各市町で締結している災害時応援協定の内容の共有や避難所開設時の災害対応の検証等を行っており、今後も各市町が連携し、円滑な災害対応につなげていきます。
5	「市民防災交流」の取組では、自主防災組織が市民に定着しているかのような記述になっているが、行政と市民の認識が乖離しないような対策が必要ではないか。	地区の過疎化や高齢化等による担い手不足の課題への対応等も含め、若い世代も交えた防災講座の開催など、今後も自主防災組織の活動の更なる活性化を図っていきます。
6	耕地面積や農家数の減少の要因として、新幹線・新設道路用地買収等もあるのではないか。	近年の耕地面積や農家数の減少の最も大きな要因としては、「高齢化」や「労働力（後継者）不足」であると認識しています。
7	圏域市町それぞれの役割を明確化し、強みを活かして効果的な施策を進めてほしい。	いただいたご意見も参考に、引き続き、各市町がそれぞれの強みを活かし、持続可能な圏域全体の発展に寄与できるよう取組を推進していきます。
8	ふくい嶺北中枢都市圏において、特に福井市に求められる役割は何か。	連携中枢都市圏の中心都市である福井市には、圏域全体の将来像を描き、圏域全体の経済をけん引し、圏域の住民全体の暮らしを支える役割があります。今後も、各市町と緊密に意思疎通を図り、活力と魅力あふれる圏域を目指していきます。
9	セーレンプラネットのプラネタリウムを改装してアリーナ体育館にしたらどうか。	関係所属と情報を共有させていただきます。